組織づくりと運営

事例7 自由ケ丘区内会　平

イベント準備を通して自治会活動に触れる

「地元への想い」が後継者育成・発掘の鍵

イベントを手伝う実行部隊「ふるさと創り部員」を編成しています。約20年前に青年会が解散したのを機に誕生した部隊で、区内26組から部員が1人ずつ選抜されています。任期は1年。新たな住民が毎年イベントの準備に携わる機会になり、住民同士の交流と自治会活動を知るきっかけになっています。

「ふるさと創り」という名前について、役員は「先輩は地区のいい文化を残したくて名付けたと思う」と推測します。ふるさと創り部員のOBに協力を呼び掛けると集まってくれるといい、人材育成にもつながっているようです。

こうした部員の協力もあって毎年開催しているのが夏の盆踊り。40年以上続き、変化を重ねて今でも200人以上が集まります。始まった当初は太鼓や囃子をプロに頼んでいたといいますが、約20年前に住民で演奏した録音テープを流すようになっています。また、自前演奏にした分、余った経費を抽選会の景品にして盛況に。6、7年前には、親や祖父母世代も呼び込もうと、和太鼓を購入して子どもたちにたたいてもらい、本番は、やぐらの上で演奏し、子どもの練習の成果を披露する場にもなっています。

区長・会長の想い

区長を16年続けてきましたが、次期区長を引き受けてくれる後継者がついに見つかりました。児童の安全見守り活動のパートナーから「ゆくゆくは地元のために貢献したい」と言われたのでお願したところ、快く引き受けてくれました。一番多忙な総務部長も、「地域のために」と数年前に新しい方が引き受けてくれました。大変だからと断られる役員の仕事ですが、いずれも地元を想う気持ちから引き受けてもらっています。「地元への想い」が後継者の育成・発掘の鍵なのかもしれません。

堀川 邦男 区長

事例8 玉川町西区会

小名浜

バザーでお年寄り支援の資金づくり

資金づくりにもつながる文化祭のバザー

住民有志の「お助け隊」がお年寄りを支援

独自に活動資金をつくり、お年寄りを支援する「お助け隊」活動を展開しています。「お助け隊」は、住民有志のサポーターがゴミ出し、見守り、買い物代行、庭木の手入れなどをして生活を支援しています。

活動資金は市社会福祉協議会から一部補助を受けていますが、玉川町自治会主催の秋の文化祭でバザーを開いて資金づくりにも取り組んでいます。売り上げは消耗の激しい草刈りの機材や油代に充てています。バザーを通して住民のいらなくなった品々をリサイクルできる上、そこで得た収入はお年寄り支援の資金確保にもつながり一石二鳥です。

事例9 金山自治会

勿来

自治会運営をスリム化

思い切った見直しで次世代の負担を軽減

時代のニーズに合わせて運営の“スリム化”を図っています。イベントの実施を見直そうと 3､4 年前に検討が始まりました。一人暮らしの高齢者に粗品を渡して見守りする「ふれあい訪問」は、施設に入所するお年寄りの増加により対象者の把握が困難な上、届けに行っても会えないなど、苦労の割に喜ばれないこともあるため打ち切り。住民の趣味の作品を展示する文化祭も、役員の高齢化に伴い、パネルの搬送が大変でケガの恐れが出てきたことや、出品者が年々減少していく状況を踏まえ、思い切って止めることにしました。区長を決める選挙制度も、選挙管理委員会を立ち上げるなど大変な一方、選挙戦になるケースはまれであるため廃止しました。

子どもみこし、盆踊りと花火大会、町民運動会、高齢者も参加できる「ふれあいスポーツ大会」、防災訓練、交通安全等の出前講座の催しなどは残され、次世代に合った運営について検討されています。

集う・楽しむ・支え合う

事例10 平第31区（下平窪）

平

ふれあい福祉のまちづくり

お年寄りのために絵手紙を作成している様子

みんなで支え合う福祉の仕組みづくり

赤ちゃんからお年寄りまでを考えた「ふれあい福祉のまちづくり」に取り組んでいます。お年寄りを支える「高齢者見守り隊」の活動は活発で、去年、介護予防の推進活動に貢献したとして県知事賞を受賞しました。

高齢者見守り隊は、平成21年9月に市の「あんしん見守りネットワーク活動事業」のモデル地区としてスタート。26人で始まった隊員は、区役員、民生児童委員、老人・青年・婦人会の各会員、消防団員らで現在130人を超えるまでに増えました。見守りを必要とするお年寄りの方々は約70名。年々増えてきています。見守りが長続きできるよう、隊員は決まった日時に訪問活動するのではなく、日常的なあいさつを心掛け、異変に気付いたら隊長を通じて関係機関に連絡することとしています。また、年2回、活動の意見交換と健康・介護予防に関する講演会を開催して、情報を共有するとともに、見守りに必要な知識を身に付けています。

見守り隊の活動では、子どもとお年寄りの世代間交流にも取り組んでいます。絵手紙作りが得意な住民の指導で毎夏、小学生がお年寄りのために作品を仕上げます。野菜の絵と温かいメッセージをしたため、絵手紙を届けに一人暮らし高齢者宅を訪問します。この活動は平成11年から続き、毎年楽しみにしているお年寄りはアイスなどを準備して児童の訪問を待っています。

秋には「ふれあい福祉の集い」を開催。平窪伝統芸能クラブの子どもたちがじゃんがらや神楽舞、婦人会がコーラス、近くの高校の生徒がフラダンスを披露し、毎年、100人を超す地元のお年寄りを盛り上げています。

7年続くサロン「老人会100円喫茶」では毎月2回、30～40人のお年寄りが集まって談笑しています。また、近くの福祉施設の利用者も訪れます。近年は介護予防の講話や健康体操も実施。安否確認を兼ねた「誕生日プレゼント訪問」や、支援が必要なお年寄りと障がい者のグループホームをマークしたマップも作成しています。

福祉支援はお年寄りだけでなく子育て世代にも。毎月1回、3歳までの乳幼児を対象に子育てサロンを開いています。民生児童委員とボランティア住民も参加し、七夕飾り、ハロウィン、クリスマス会などを楽しみます。19家族、乳幼児24人が参加登録しており、母親は子育ての悩みを相談し合っています。

区長・会長の想い

お年寄りの家に届ける絵手紙作りでは、近年、児童が「自分のおじいちゃん、おばあちゃんにも配りたい」と言うようになりました。絵手紙作りは、お年寄りを喜ばせるだけではなく、子どもの情操教育にもつながっています。

地区には障がい者のグループホームが多く、地元小学生との交流の場を設けたり、地区行事では障がい者施設の商品を購入するなどしていますが、地域の中で生活する障がい者をどう支援していくのかが今後の課題だと考えています。子どももお年寄りも障がい者も、皆さんが住んでよかったと思える地区をつくっていきたい。

佐藤 将文 区長

事例11 金山自治会

勿来

子どもたちにたくさんの思い出を

伝統の安寿・厨子王祭

地区の行事が子ども達の大切な思い出に
撮影者・安西 久

子ども行事の代表が、地区に伝わる「安寿と厨子王」の伝説を生かした子どもみこし。「安寿・厨子王祭」と銘打ち、代表児童が安寿と厨子王役に扮して地区内を練り歩きます。

その様子は年4回発行される自治会報で毎年伝えられ、児童の思い出がつづられた感想文も紹介されます。

子どもたちに「安寿と厨子王」の歴史を伝えているのが「金山の昔を伝える会」。メンバーは定期的に勉強会を開いて郷土の歴史に理解を深め合い、地元の小学生に安寿と厨子王物語や金山の歴史を伝承する活動も。母子像や案内板の掃除、周辺の草むしりを定期的に実施し、住民に忘れられないよう美化に努めています。

区長・会長の想い

少子高齢化が進んで隣に住む人も分からない時代になっています。だからこそ、子ども会の活動を大切にしたい。ここが故郷になるので、子ども達には友だちとの付き合いを大事にして、たくさんの思い出をつくってほしい。そして、大人になって、この故郷に戻ってきてくれたらとても嬉しく思います。

広木 正行　会長

事例12 大高区会

勿来

防災訓練の様子

防災士を養成

防災活動のスペシャリストが活躍

地区の防災活動のリーダーとして、防災士を養成しています。防災士は、市が主催する養成講座で、避難誘導や負傷者の救助、避難所の運営支援等について学び、資格取得試験に合格すると認証されます。

地区には現在5人の防災士が活動しており、年1回の防災訓練では、消火器の使い方や消火方法についてアドバイスするほか、講話なども行います。